



たいせつなふるさとで、  
たいせつなひとを診る。

熊本県地域医療支援機構  
熊本大学病院 地域医療支援センター内  
熊本市中央区本荘1-1-1  
TEL:096-373-5627  
<http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>  
ご感想、ご意見お待ちしております。



龍ヶ岳山頂から見た海に沈む夕日

ココ、熊本で、地域の医療を支える。ココデ  
COCO CODE! ココデ

2022 Spring vol.3

# ココ、熊本で、地域の医療を支える。

# COCO CODE!

ココデ



Top Interview

上天草地域と、  
わたしが交わした  
3つのミッション。

上天草市立上天草総合病院

診療部長兼内科部長

MASAFUMI WADA

和田正文先生

写真：高舞登山から上天草の島々を望む

Take Free

熊本県地域医療支援機構 広報誌

## CONTENTS

- 02 Greeting  
上天草地域の医療介護福祉の拠点として  
包括的医療を提供  
上天草市立上天草総合病院 院長 脇田富雄先生
- 特集1  
03 上天草地域と、わたしが交わした3つのミッション。  
上天草市立上天草総合病院 診療部長兼内科部長 和田正文先生
- 特集2  
07 Think globally, act locally  
上天草のDOCTOR-C  
頑張る若手医師対談  
林 広隆先生×中原 大智先生  
HIROTAKA HAYASHI DAICHI NAKAHARA
- 09 がんばる先生の、がんばらない時間  
上天草総合病院 竹下哲二先生・村上直也先生
- 11 患者さまからのメッセージ  
坂口克夫さん
- 13 教えて先輩！  
若手総合診療医×医学部生との座談会  
若手総合診療医・松本朋樹先生
- 15 医学部学生からのメッセージ
- 16 医療まめ知識  
熊本大学病院 総合診療科 佐土原 道人先生
- 17 「くまもと地域医療ステーション」ホームページリニューアル
- 18 熊本県地域医療支援機構の取り組み  
「早期臨床体験実習」に密着！

COCODEは、  
熊本県内で活躍する  
医師の姿などを通じて、  
医師を志す学生や  
地域の皆さんに  
地域医療の魅力を伝える  
マガジンです。

COCODE

GREETING

# Our mission

上天草地域の  
医療介護福祉の拠点として  
包括的医療を提供



上天草市立上天草総合病院 院長  
**脇田 富雄**先生  
1986年自治医科大学卒業後、熊本赤十字病院、球磨郡公立多良木病院など熊本県内の医療機関を経て、2019年上天草総合病院院長に就任

## generalなmindで、 患者一人ひとりに向き合う

2020年10月より、岸川秀樹先生が病院事業管理者として赴任され、事業管理者とともに病院管理運営を行っています。

当院は上天草市(龍ヶ岳町・姫戸町・松島町・大矢野町)、および天草市の一部(御所浦町・倉岳町・有明町の一部)を診療圏対象とした病院です。救急患者を受け入れる急性期一般病棟から在宅復帰支援などを行う地域包括ケア病棟、慢性期医療を担う療養病棟を持ち、その後の在宅医療に繋げ、シームレスな医療提供を心掛けています。都市部の病院とは違い、患者一人一人に向き合い、かかりつけ医としてのgeneralなmindを大切にすることが必要となります。

目の前に八代海が広がり、後方には龍ヶ岳がそびえる自然豊かな病院で、少ない医師数ではありますが、都市部の病院では経験できない包括的な医療を、地域住民に提供しています。

# 上天草地域と、 わたしが交わした 3つのミッション。

上天草市立上天草総合病院  
診療部長兼内科部長

わだ まさ ふみ

## 和田 正文先生

熊本県上天草市出身。1998年に福岡大学医学部卒業後、熊本大学病院、荒尾市民病院など熊本県内の医療機関に勤務。2006年に上天草総合病院に着任後、2014年診療部長兼内科部長。天草エリアに多発するマダニ媒介性疾患に関し、研究・啓発活動や熊本県診断システムの構築に尽力し、2018年「平成29年度熊本医学会奨励賞」などを受賞。

### 和田正文先生が誓った

## 3 Missions

- Mission 1** 人に寄り添い、その人の人生を診る
- Mission 2** マダニ媒介性疾患の死亡者ゼロを目指す
- Mission 3** 上天草地域の子どもたちに医療に関する体験活動を行い、地域活性化につなげたい

### 龍ヶ岳山頂で誓った

“ふるさとの人々の健康な暮らしを守りたい”

上天草市にある標高470メートルの龍ヶ岳山頂。眼下に不知火海に浮かぶ島々を一望するこの地は、上天草市出身の和田正文先生にとって特別な場所。「ここは、子どもの頃遠足で登った大好きな山。医師となり、ふるさとに戻ってきてここから眼下を眺めると、ここで暮らすすべての人の健康を守りたいという思いが沸き上がってきます」。

上天草市で生まれ育った和田先生。両親が上天草総合病院に勤務していたことから、医療職に興味を持ち医師に。大学卒業後は熊本県内の病院に勤務し、2006年に上天草総合病院に赴任しました。



“正文”という名前は、上天草総合病院の創立者であり、町長を務めた辻本市之助氏が命名。「そのせいか、地域に尽くしたいという思いは人一倍強いですね」



気さくなムードメーカー。スタッフや患者さんとの会話はいつも笑顔

# MASAFUMI WADA

# 誰もやっていない ことに取り組めば、 それが先進医療



## マダニ疾患の流行地、天草。 豊富な臨床経験を見込まれ、厚生労働省の 研究メンバーに

ちょうどその頃、全国的にマダニによる媒介性疾患が増え始め、上天草エリアは160症例を超える日本有数の流行地に。和田先生は、豊富な臨床経験を見込まれ、厚生労働省のマダニ疾患の研究班のメンバーに選出。その活動は多面的で、マダニ刺症における気温、天気、台風発生との関連を導き、患者の発生を予測。患者発生時には現場に出向き、周辺環境の確認やマダニの種類と同定、細菌、ウイルスの保有状況などの疫学調査を実施。「気象学や地質学にも興味があり、あらゆる角度からマダニ疾患を診ることで、重傷者や死亡者の低減につなげたい」と意気込みます。またマダニ疾患の診断や治療の手引きに関するポスターやDVDなどを熊本県と協働で作成し、熊本県診断システムの構築にも尽力。地域住民や医療機関へ講演活動を行うなどの啓発活動も評価され、「平成29年度熊本医学会奨励賞」を受賞しました。



天草エリアを一望できる龍ヶ岳山頂にて。「マダニ疾患の死者ゼロを目指したい」

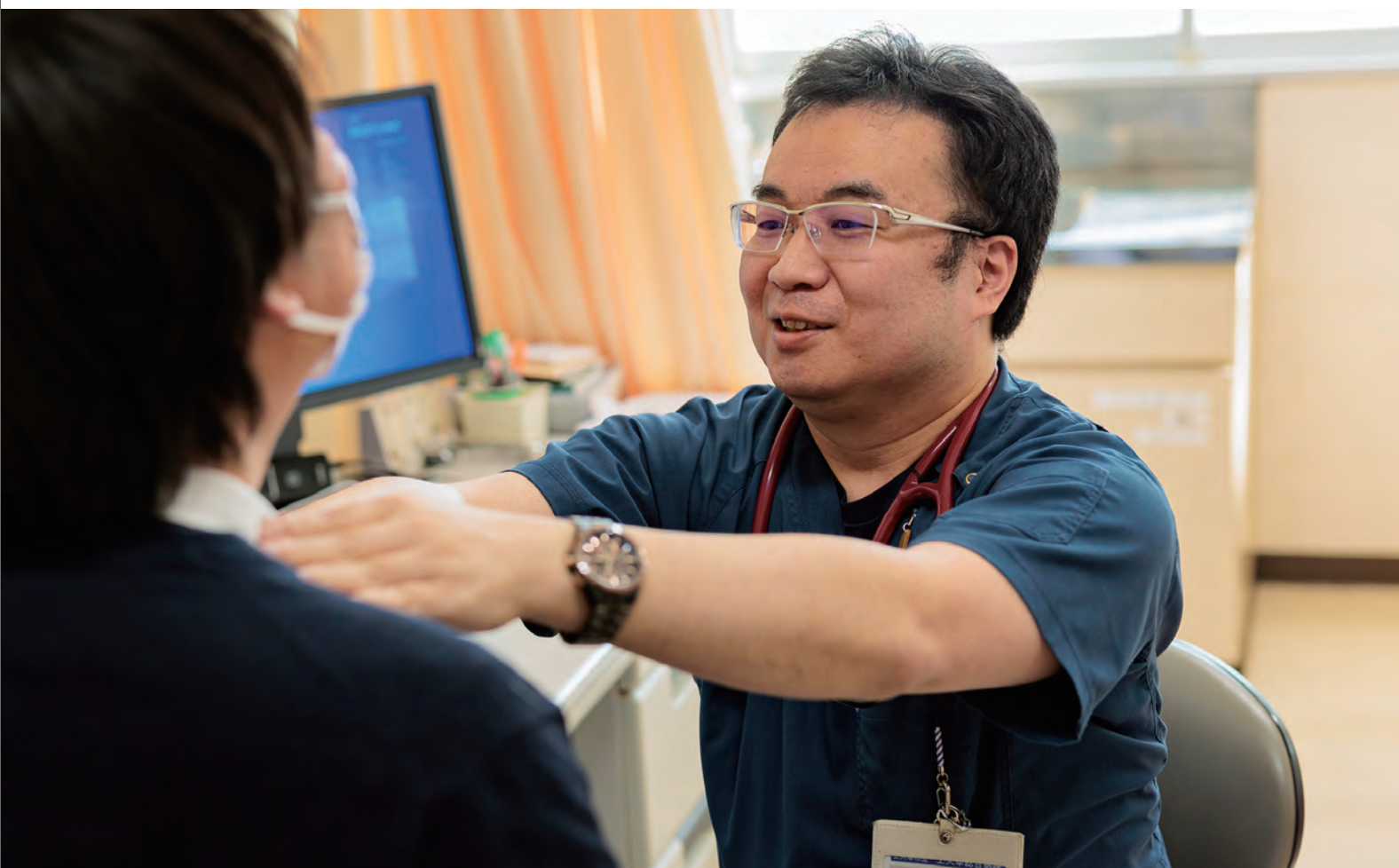
## 医師、教育者、 研究者として奔走

上天草エリアは、若い世代の地元定着率の低さも課題の一つ。和田先生は、地域の大きな雇用先の一つである病院の仕事に興味を持ってもらおうと、イベントを企画・運営。腹腔鏡を使ってスポンジを動かすゲームや、お菓子を薬に見立てて調剤する体験など、20余りのブースを作り、700人以上の参加がありました。「医療の仕事に就きたい！」と目を輝かせる子どもたちに元気をもらいました(和田先生)。

「人を診ることは、その人の人生を診ること」と話す和田先生。診療に加え、併設する看護学校の学生や研修医の指導、マダニ疾患に関する研究など、医師、教育者、研究者として奔走する日々です。「都会であれ、田舎であれ、研究材料はたくさん転がっています。自分が見つけた課題が誰もやっていないことであれば、突き詰めていくことで先進医療になる。これからも地域のために尽くしたい」と目を輝かせます。



和田先生が院内で使っているPHSの番号は「778」で、ダニの感染症「日本紅斑熱」のICD-10のコードが「A-778a」。「偶然に数字が一致していて、縁を感じます」



ダニ研究者が集まる全国学会「ダニと疾患のインターフェイスのセミナー」を上天草市で開催し、和田先生は大会長として尽力



## 若手医師対談



Think globally, Act locally!

上天草総合病院

はやし ひろ たか

林広隆先生

上天草総合病院

なか はら だい ち

中原大智先生

経験の積み重ねが  
自信につながる

林: 中原先生は、昨年上天草総合病院に赴任され、教良木診療所の所長としても地域を支えておられます。

中原: 地域医療に貢献したいという思いで上天草に赴任しましたが、最初は不安もありましたね。

林: どんなところが不安でしたか？

中原: 医師として3年目ということもあるんですけど“経験していないこと”への不安ですかね(笑)。

林: 駆け出しの医師は、どこに行っても同じような悩みを抱えますよね。

中原: そうですね。「不安は、医師としての経験を積まないで克服できない」と考えるようにしています。患者さんの健康課題に丁寧に向き合い、経験を積み重ねることで、少しずつ不安が減って、自信につながるという感じですね。

林: 当院にはサブスペシャリティを持った先生もおられるので、不安に感じるときは専門の先生に相談できる環境も心強いですよね。

中原: そうですね。総合診療医を志す若い先生方には「不安を持ったままでもいいから、安心して上天草に来てください!」と言いたいです(笑)。



## ある日の林先生のタイムスケジュール

08:00 出勤後回診  
09:00 外来  
13:00 昼食  
14:00 救急外来、心臓カテーテル治療のサポートなど  
19:00 論文執筆、パワーポイントの資料づくりなど  
22:00 帰宅後、夕食・入浴  
24:00 就寝

多くの症例に触れ  
研鑽を積む

中原: 林先生は内科医長として一人ひとりの患者さんに向き合いながら、脳神経内科のスペシャリストとしても地域医療に貢献しておられます。

林: 私が赴任するまでは上天草地域に脳神経系の常勤医がいなかったんです。一刻を争う脳卒中でも、1時間近くかけて天草市内の病院に行かなければなりませんでした。

中原: 脳のスペシャリストとして、院内外の先生たちから頼られる存在です。

林: やりがいはありますね。都会の大きな病院であれば、脳神経外科と脳神経内科は分かれています。ここでは脳神経系の患者さんを私一人で担当しますので、多くの症例に触れることができ、学びの多い日々です。

中原: 上天草地域の患者さんって、抱えている疾病はあってもバイタリティあふれる方が多いですね。人生の先輩方が自分で歩いて外来の診療室に入って来られる姿には感動します。

林: そうですね。ご自身の健康管理のみならず、同居のご家族やソーシャルワーカーなど強固な地域医療ネットワークによる手厚い支えがあるからでしょう。これらも一丸となって、地域の医療を支えていきましょう。



## ある日の中原先生のタイムスケジュール

07:00 起床後朝食  
08:00 出勤後回診  
09:00 教良木診療所へ移動  
12:00 外来終了後、上天草総合病院へ  
13:30 昼食後、救急外来対応など  
19:00 帰宅後、夕食・入浴  
24:00 就寝

# がんばる先生のがんばらない時間！

## 休日は、愛車ポルシェで海辺をドライブ

病院互助会写真部「写龍」の部長をしています。天草には素晴らしい風景がいたるところにあり、毎年、同部で撮影した写真を使用して、病院のカレンダーを制作しています。「地方の病院で働くのは不安」と考える方もいらっしゃるかもしれませんが、発想を逆転してみませんか？私は、平日、診療や研究が終わってから釣りやドライブなどの田舎暮らしを満喫し、週末は都心部でショッピングや、おしゃれなレストランを楽しんでいます。また地方ならではの臨床研究に取り組むことができ、視能訓練士たちと協働し、年間4、5本の論文を出しています。



愛車ポルシェで海辺をドライブ

「栖本町の夕日」をパシャリ



院長代理兼眼科部長  
**竹下 哲二先生**



整形外科部長  
**村上直也先生**

## 釣りも！スケボーも！登山も！思い立ったらすぐに楽しむ！

趣味はスノーボードで、インストラクターの資格を持っています。かつては週末ごとに足を運んでいたのですが、コロナ禍ではスノーボードのトレーニングも兼ねてスケートボードを楽しんでいます。上天草市松島総合運動公園「アロマ」の駐車場で、仲間と一緒にスケボーを練習する日々です。上天草は、思い立ったらすぐにレジャーを楽しめるのが魅力です。手こぎボートで釣りに行ったり、体力づくりのために登山を楽しみます。松島町の次郎丸嶽の山頂から見る海の風景は、最高ですね。



スノーボードのオフトレのため、スケートボードの練習をしています



昨年のGWに家族で次郎丸嶽(九州百名山)に初登山、それから山登りにはまっています

## 上天草よかところ・うまかもん

**マリナクティビティ**

シーカヤックやクルージング、イルカウォッチングなど、さまざまなマリナクティビティを楽しめます。

**Scrammy ice cream**  
(ミオ・カミーノ天草)

天草晩柑や天草塩キャラメルなど、天草をはじめとする九州各地の食材を取り入れたアイスクリームが人気のお店。

**トレッキング**

次郎丸嶽や太郎丸嶽をはじめとするトレッキングスポットもいっぱい！青い海や島々を見渡す絶景をお楽しみください。

**海鮮丼**

地元天草で水揚げされたばかりの新鮮魚介類がぎゅっと詰まった海鮮丼。コリコリの食感と甘みがたまらない！

**上天草温泉郷**

大矢野・松島温泉からなる温泉郷。眼下に海が広がる温泉に入ると、心も体もリフレッシュ。

**天草大王**

熊本県が10年の歳月をかけて復元した国内最大級の大さを誇る幻の地鶏。コリコリとした歯ごたえと甘みのある脂が絶品！

# 海辺の病院で

「2度も命を救ってもらって、感謝の気持ちでいっぱいです」



坂口克夫さん

背後に天草最高峰、倉岳がそびえ、眼前に不知火海が広がる天草市倉岳町。人気バンド「WANIMA」のメンバーの出身地としても知られる自然豊かなこの地で、坂口克夫さん(73)は暮らしています。冬場は強烈な北風“倉岳おろし”が吹くこの地で農業をしながら一人暮らしをしている坂口さん。“健康だけが取り柄”と思っていた坂口さんは、2013年の初冬、突然の体調不良に見舞われました。



患者の坂口克夫さん(右)と主治医の和田正文先生

## 致死率が高い 危険なマダニ感染症に

2013年11月、教良木地区で、知人の草刈りを手伝った坂口さん。しばらくすると、だるさや食欲不振に見舞われます。姉に相談したところ「今すぐ上天草病院に行きなさい」と言われ、和田正文先生の診察を受けました。

詳しく検査をするとマダニ媒介性疾患の「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」と診断。「長袖長ズボンで作業しとるし、チクツともせんかった。“即入院してください”と言われてびっくりしました」と当時のことを振り返ります。処置の速さも手伝って、致死率10~30%という重篤な疾患を乗り越えました。



龍ヶ岳山頂で研究用のマダニを採取する和田先生

## 2度の感染で日本初の症例に 「命を助けていただきました」

それからというもの、首にはタオルを巻き、長袖長ズボンの上から、さらに手・足カバーをするなど、万全の備えで農作業に励んだ坂口さん。しかし、2014年9月、坂口さんを再び体調不良が襲います。すぐに和田先生を訪ねると、今度はマダニ媒介性疾患の「日本紅斑熱」に感染したと告げられます。坂口さんは、マダニ媒介のウイルス(SFTS)と、細菌のリケッチア(日本紅斑熱)の両方を体験した日本で最初の患者さんとなったのです。「2度も和田先生に命を助けていただき、感謝しかないですね」



「足のこのあたりば刺されたですもんね(坂口さん)」  
「気を付けて作業してくださいね(和田先生)」

## 「先生と話すのが、楽しみ」

天草地域では、木の伐採や農作業などをしながら暮らす住民が多く、常にマダニの脅威にさらされていると話す坂口さん。「仲間たちにも“具合の悪うなったら、すぐに上天草病院に行かんばよ”と言うとります。私たちにとって上天草病院はなくてはならん存在です」

現在は、健康管理のために定期的に上天草病院を受診する坂口さん。“和田先生に会うのが楽しみ”と話し、「日常生活や健康状態などなんでも話します。コレステロール値などを定期的にチェックしてもらうことで、一人暮らしでも安心して暮らすことができます」と笑顔を見せます。



坂口さんは、ダニ感染症にかかり一命を取り留めた男性としてテレビ朝日「スーパーJチャンネル」にも出演しました

# WhyGP?



熊本大学総合診療科 天草教育拠点 特任助教 松本朋樹先生  
熊本大学医学部医学科5年 渡邊光紗さん  
熊本大学医学部医学科3年 原裕介さん

## 外科的手技って、どんなことするんですか？

**松本先生:** 皆さん、こんにちは。私は天草地域医療センターで総合診療医として働いています。医師として8年目で、出身は天草市牛深です。よろしくお願ひします。

**渡邊:** 早速質問なんですけど、初期研修を終えてすぐに病棟の患者さんや外来を担当するのが不安です。

**松本:** 施設によって違いはあると思いますが、最初は外来陪席から始めて、ステップアップしながら仕事を覚えていくので安心して下さい。地方の病院はマンパワー不足で忙しいんじゃないかと考えられるかもしれませんが、私が勤めている病院では、通常無理なく仕事を終えて帰宅しますし、当直も月2回程度ですから学びやプライベートの時間は比較的取りやすいと思います。

**渡邊:** 総合診療医が行う外科的手技にはどのようなものがあるのかも気になります。

**松本:** 傷の縫合や脱臼の整復などがありますが、頻度的に多いというわけではないですね。



原裕介さん

松本朋樹先生

渡邊光紗さん

## 医学情報がどんどんアップデートされる現代は いかに早く正確な情報にたどり着くかがカギ

**原:** 地方にいて幅広い知識のアップデートができるのが気になります。

**松本:** 最新の医学知識を学び覚えることも大事ですが、いかに早く正確な情報にたどり着くかがカギになってきていると思います。たとえば働く中で、疑問などが出てきたときに、「UpToDate」(\*)などを利用して5分以内に正確な情報にたどり着く能力が求められるんですね。その能力を身に付けるには、テニスの素振りみたいに何度も検索してスキルを磨くことが大切です。

※「UpToDate」…診療の際、医師が遭遇する疑問に、即座に実用的な回答を得られるようデザインされたエビデンスに基づく臨床意思決定支援リソース

## 若手医師×学生二人座談会 総合診療医のリアルを 直撃「教えて先輩！」

日々、学びを深める医学生が抱える疑問や不安を、  
実際に総合診療医として活躍している若手医師に直撃する人気企画！  
今回は天草地域医療センターで総合診療医として働く松本朋樹先生に、  
学生二人が、総合診療医に必要な能力などについて聞きました。



## 総合診療医に 必要な能力って？

**松本:** お二人は、総合診療医に必要な能力って何だと思われませんか？

**渡邊:** 私は患者さんに心を開いてもらえるような人柄が大切だと思います。

**原:** コミュニケーション能力と、診療における広い視野が必要だと思います。

**松本:** 私は患者さんが安心して話して下さるような話しやすさやコミュニケーション力は大事だと思う一方で、医師としての視点というの忘れないようにしています。「鳥の目、虫の目」という言葉がありますが、虫のように近くから患者さんに寄り添う視点と、空を飛ぶ鳥のように、物事を俯瞰する目が必要です。患者さんやそのご家族が望まれる治療でも、医師としてその治療が妥当か否かを判断し、お互いが納得するゴールに向かって信頼関係を築きながら進めていくことが大事だと思います。

## 人生経験と診療経験を相互に高めていけるのが 総合診療医の醍醐味

**渡邊:** すばり総合診療医の魅力は何だと思いますか？

**松本:** どんなに体が思うように動かなくても、残された時間がわずかであっても、「自分の人生を自分で決める方々」を見てきました。その決断を共に悩み、支え、時間を過ごすことも医療者の役割であり、やりがいを感じます。また、私は、総合診療医として、乳児健診や小児診療をやってきました。今年子どもができ、父親となって改めて、子供の発熱で救急外来を受診する親御さんや健診で子供の発達を心配する親御さんの気持ちが痛いほどわかりました。総合診療医であることは、自らの子育てにも役に立つと同時に、一人の子どもの父親であることは、診療する上でとても役に立ちます。人生経験と診療経験を相互に高め合っていくということが総合診療医の醍醐味ではないでしょうか。

**渡邊:** 私はふるさとの天草で訪問診療をやりたいという夢があります。天草で地域医療に尽力されている松本先生のお話は、とても勉強になりました。

**原:** 10年後に医師として自分がどうなっているのかのイメージが持てなかったんですが、松本先生の話聞いてとてもためになりました。

**松本:** へき地医療は大変な側面もありますが、その土地の運命と一緒に切り拓いていくことは、医師としてだけでなく、人間として充実感を持って取り組めることだと感じます。熊本の医療を支えていくお二人に期待しています。





熊本大学 医学部医学科1年  
永野 七海さん(菊池郡菊陽町出身)  
課外活動では、一次救命処置の普及活動などに取り組む「ALS部」に所属しています。心臓マッサージの実施やAEDの使用法、回復体位への体位変換などを学んでいます。実際に救命措置を実践したことはなく、初めて参加したワークショップでは戸惑うことも多かったですが、先輩方が優しくフォローアップして下さいました。



鹿児島大学 医学部医学科6年  
高吉 晃輔さん(鹿児島県指宿市(現・南九州市)出身)  
臨床実習では、同じ志を持つ学友や先生からだけでなく、患者さんからも多くのことを学んでいます。実習を経験したことで「医学とは、人体の仕組みや病気のメカニズムなどを学ぶ学問であるだけでなく「人間」「人生」「人情」などといった「人」を学ぶ学問なのではないか」と考えるようになりました。休日は、工具やカー用品などを買い揃えて、車の手入れや整備などをDIYでやっています。

# Message corner

学生の“今”に迫る  
「医学部学生からのメッセージ」



熊本大学 医学部医学科4年  
坂本 萌さん(合志市出身)  
写真を撮るのが趣味です。フォルダを見返したら自分自身の写真は少なく、友達、野良猫、桜、激辛ラーメンの写真がいっぱいで笑ってしまいました。好きな授業は、小児科・小児外科に関する授業です。小児科での実習の症例と照らし合わせて授業を聞くと、わかりやすかったです。将来は十分な知識と技術を身に付け、地域の方が安心して通ってくださるような総合診療医になりたいです。



琉球大学 医学部医学科3年  
緒方 紫音さん(熊本市出身)  
内分泌系の授業に興味があります。一つの病変が原因で、全身に多様な症状が出るのがとても興味深く感じます。課外活動では、弓道部に所属しています。自分の理想の射に近づくために、ああでもないこうでもないとして試行錯誤をしていると無心になれるのが楽しいです。的にキレイにあたるととてもスッキリして、ストレス解消になります。

# 医療 医療(め) 知識



## 海の生き物に刺された時の応急処置

マリンレジャーが楽しい季節がやってきました。今回は海の生き物に刺された時の被害や応急処置、注意点について熊本大学病院総合診療科の佐土原道人先生に聞きました。

Q: どのようなときに海の生き物に刺されるのでしょうか？

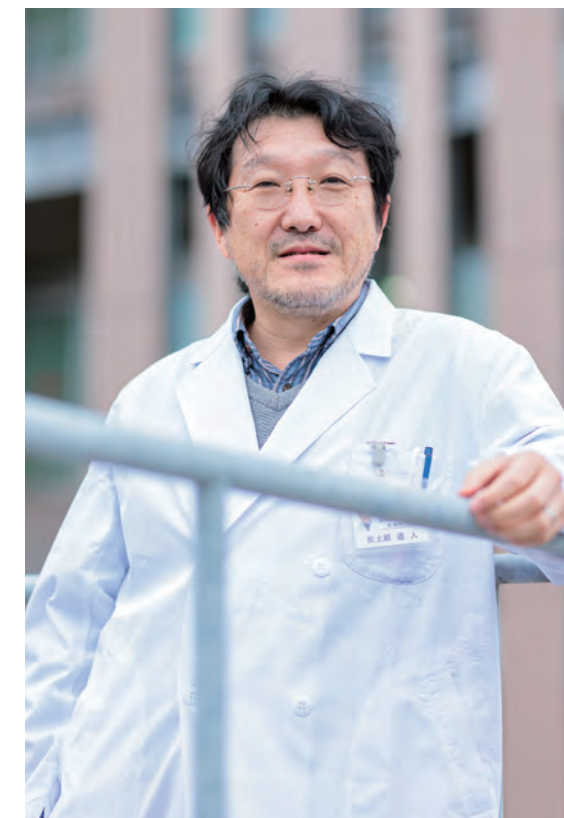
A: 磯遊びで、誤ってウニや魚類を踏んだり、有毒なイソギンチャクや貝類に接触することで刺されることが多いです。釣りや夏の海水浴のシーズンは、魚のヒレなどに刺されることも多く、晩秋になるとクラゲに刺されることもあります。クラゲ類は、日本の沿岸であればどこでも刺されます。多くが一瞬痛みを感じる程度で、生物が特定できないことも少なくありません。種類によっては、接触すると激痛、ミミズ腫れとなり、長く残るものもあるため、浜辺に漂着した生物には、たとえ生物の体の一部であっても、触れないようにすることが大切です。塊状に群れるゴンズイという魚も刺されると激痛です。アイゴ、コチをはじめ、ガラカブなどのカサゴ類も、程度はさまざまですがヒレは有毒です。また調理をする際に、刺さって痛い思いをすることがありますので注意が必要です。

Q: 応急処置としてどのような対処が必要でしょうか？

A: 普通、打ち身や怪我の対処法としては、冷やしたりすることが多いものです。しかし、海の生き物の刺傷による毒は、酵素が失活すると痛みがやわらぐことがあるので、少し熱めのお湯に浸してみるという場合があります。それでも「腫れる」「痛みが取れない」などの場合や、刺されたところ以外の全身の症状が出現した場合には、必ず医療機関を受診してください。

Q: その他、注意すべきことはありますか？

A: 近年の地球温暖化の影響で、亜熱帯の海洋生物が見られるようになりました。ヒョウモンダコというカラフルな小型のタコやイモガイという巻貝類は、刺された時の痛みはあまりないですが、重症化しやすく、死亡例も報告されています。また、クラゲ類に水中で接触して痛みでパニックとなり溺れることもあります。これらの海洋危険生物から身を守るためには、刺されたり、接触を防ぐ服装で楽しむのももちろんのこと、あらかじめレジャー先の地方自治体が公開している資料やインターネット上の注意情報などから予備知識を得ておくことも重要です。



### 海洋生物刺傷のまとめ

- 海洋生物刺傷は、ファースト・エイドとして痛みの軽減に温水浴が有効なことがある。
- 海洋生物やその毒素によっては、局所の症状だけでなく、全身症状を伴い重症化する場合もあり、厳重な経過観察が必要である。
- 刺傷部の腫脹、痛みが増悪する場合には、追加処置が必要な場合があるので医療機関受診が必要である。
- 刺傷や接触を避けるため、肌の露出が少ない服装で、裸足は避ける。
- 特に知らない海洋生物のトゲ、ヒレ、触手は、生きていなくても素手で触らない。
- 当該地域の有害海洋生物の情報や、万一の場合に対応できる医療機関を、行政やインターネットで調べておくことが重要である。



教えてくれたのは

熊本大学病院 総合診療科  
佐土原 道人先生

# 「くまもと地域医療ステーション」のホームページがリニューアル！

2022年4月、熊本県が運営する「くまもと地域医療ステーション」のホームページがリニューアルします。熊本県内で医師を目指す皆さんにとって、より見やすく、わかりやすくなります。新しいホームページの活用法を、熊本県医療政策課の浦上美優さんに聞きました。



## 活用ポイント1 総合診療医の魅力が丸わかり！

若手総合診療医の一日に密着！総合診療医のやりがいや魅力を医学生や中高生にわかりやすく伝えます。動画や画像をふんだんに使うことで、総合診療医のリアルに迫ります。

総合診療医の先生方が、どのような地域課題にどんなふうに向き合っておられるのかわかりますよ！



## 活用ポイント2

### 県内の専門研修プログラムが一目でわかる！

日本専門医機構が認定した、県内の専門研修プログラム（基本領域）を一覧にまとめました。「総合診療」「内科」など、診療科19領域ごとのそれぞれのパンナーをクリックすると、研修可能な病院の一覧が表示されます。

これまでは病院名を一つずつ検索して、専門研修プログラムの有無を調べる方が多かったと思いますが、診療科ごとにまとめることで、希望する診療科ごとの基幹施設（病院）が一目でわかるようになりました。熊本県内の病院に関する情報が少ない、県外で学ぶ学生さんにも活用していただくと嬉しいです。



## 活用ポイント3 ほかにもいろいろ！ 修学資金や初期臨床研修先などの情報も！

熊本県で地域医療に貢献したいという意欲ある学生向けの「熊本県医師修学資金貸与制度」や県内にある14の基幹型臨床研修病院などの情報も充実しています。



熊本県内で医療に貢献したい若者を応援します！



私の出身地、上天草市の魅力が詰まった特集P2~12を見てね！

熊本県健康福祉部健康局医療政策課  
企画・医師確保班  
浦上美優さん(上天草市出身)

# 地域医療の現場を体験！ 「早期臨床体験実習」で、モチベーションアップ！

熊本大学医学部医学科の臨床実習カリキュラムの一つである「早期臨床体験実習」。今回は、小国公立病院で実習に取り組んだ同学科3年生・古池雅明さんに密着しました。

古池さんが取り組んだ小国公立病院での実習は、外来実習陪席や老健回診陪席、地域連携室の見学など、地域包括ケアシステムの全体像を実践的に学ぶことができる5日間のプログラムです。



医師の回診に陪席。「小国地域のお年寄り元気！」

## 地域医療に貢献できるよう学びを深めたい

「おぐに老人保健施設」で、医師の回診に陪席した古池さん。医師と利用者さんとのやり取りを熱心にメモしていると、利用者の皆さんから「頑張りなっせ！」の励ましの声も。「座学では得られない貴重な体験をさせていただきました。さらに学びを深めて、信頼される総合診療医になれるように頑張ります」と目を輝かせます。



医師、看護師長、薬剤師らによる回診。「チーム医療の大切さを実感しました」



病棟総合カンファレンスに参加。「質問されたらどうしよう…」

## 患者さんとの信頼関係の大切さを痛感しました

私が小国公立病院を実習先に選んだ理由は、「COCODE」を読んでたことです。同院の片岡恵一郎先生が「小国は、20年先に日本が直面する高齢化の課題に向き合っている」という話をなされていたので、ぜひこの病院で実習をしたいと思いました。実習で印象的だったのは、先生方と患者さんの距離が近いことです。病気やその予防法について話すだけでなく、家族や仕事などの話をしながら信頼関係を築くことで、患者さんの健康を支えていることがわかりました。今回の実習では、総合診療医として活躍されている先生方に、将来の相談にのっていただくなど、有意義な時間を過ごすことができました。また、地域の方との交流の機会を設けていただいたことで、地域医療に貢献したいという思いがさらに強くなりました。自分の勉強不足にも改めて気づかされ、学びへのモチベーションアップにもつながりました。



熊本大学医学部医学科3年  
古池 雅明さん